

# 1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

音更町立音更中学校

C-8

## 【活動名】 教員の資質・能力の向上に資する「新たな研修スタイル」の確立

### 解決すべき課題：

- 1 今後は若手教員が大幅に増えるため、若手教員の資質・能力の向上を図る機会を増やす必要がある。
- 2 それぞれの教員が実践上の課題を明らかにし、それぞれの課題の解決に向けた研修を実施する必要がある。
- 3 授業時数の確保及び勤務時間の関係等により、研修する機会が限られているため、年間を通して、研修時間を確保する必要がある。

### 目的や背景：

< 目的 > 優れた実践を積み重ねている先輩教員等を講師として招聘した「選択研修」を実施し、教職に関する豊かな知識や優れた技能等が伝承されるように努めるなど、教員の資質・能力の向上に資する「新たな研修スタイル」を確立する。

< 背景 > かつては、教員に採用された後、学校現場における実践の中で、経験豊富な先輩教員から経験の少ない若手教員へと「生徒との関わり方」「発問や板書の工夫」等の知識・技能が伝承されることで資質・能力の向上が図られてきたという側面が強かった。しかしながら、近年の教員の大量退職、大量採用の影響により、必ずしもかつてのような先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承がうまく図られていない状況があるといった指摘も強い。このような状況に対策を打たなければ、先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承が途切れてしまう恐れがあり、若手教員が持つ知識・技能をどのように生かしていくかということも含め、継続的な研修の充実のための環境整備を図るなど、早急な対策が必要である。

### 活動内容：

- 1 校内研修の枠組みの変更  
以前は、教職経験に関係なく、全教員が同一のテーマの下で校内研修に取り組んでいたが、今後は教職経験やそれぞれの教員が有する課題に応じた研修を通して、教員の資質・能力の向上を目指す必要がある。そのため、本校では、道徳教育の推進などをテーマとして全教員で研鑽を深める「全体研修」とともに、優れた実践を積み重ねている先輩教員等を講師として招聘した「選択研修」を実施するよう校内研修の枠組みを変更した。
- 2 「全体研修」の概要  
北海道教育大学附属釧路中学校教諭によるモデル授業の参観及び研究協議を通して、教員が道徳の指導のポイントについて理解を深めることができるようにするとともに、研究大会等において、道徳の授業を公開することで道徳の指導のポイントを一層理解することができるようにしている。
- 3 「選択研修」の概要  
(1) 「選択研修」の特徴は、教員のニーズに応じたテーマを設定し、各自の希望に応じて「選択研修」に参加する、参加の希望のあった教員を対象として「選択研修」を実施するため、授業は通常通りに行うことができる、それぞれのテーマについて専門性を有し優れた実践を積み重ねている講師を招聘する、十勝管内の各小・中学校 142 校に「選択研修」の案内文書を配付し、自校はもとより十勝管内の教員の研修の機会の充実に資する、「選択研修」終了後、参加者を対象にアンケートを実施し、「選択研修」の成果と課題を明らかにすることである。  
(2) 「選択研修」の内容は、アクティブ・ラーニングへの転換及び数学科の授業改善、道徳科の指導のポイントなどをテーマとした学習指導にかかわる研修、不登校生徒への対応及びストレス対処、学級経営などをテーマとした生徒指導にかかわる研修、ネットトラブルの防止にかかわる研修、保護者対応にかかわる研修、通常学級における特別支援教育にかかわる研修である。  
(3) 学校がより困難度を増している生徒指導上の課題に対応していくためには、教員が心理や福祉等の専門家や関係機関、地域と連携し、チームとして課題解決に取り組む必要がある。そのため、生徒指導にかかわる研修の実施に当たっては、臨床心理士や社会福祉士等を講師として招聘し、参加者が医療や福祉等に関する専門的な知識や見方を高めるとともに専門家と連携するメリットを感じ得ることができるようにしている。

### 活動の成果：

- 1 「全体研修」の成果  
道徳性の変容を把握するため、年度当初と年度末に生徒を対象としたアンケート調査を実施し、「友だちの悩みに対して真剣に相談に乗っている」と回答した割合が 65.9% から 70.4% になるとともに、若手教員にとっては先輩教員の優れた指導技術や指導方法等を学ぶ絶好の機会になっている。
- 2 「選択研修」の成果  
(1) 「選択研修」終了後のアンケート調査の結果から、「授業参観や研究協議等を通して、授業改善や生徒指導等の改善に向けた視点や方策を理解することができた」と回答した参加者の割合が 87.0% であり、それぞれの教員の実践上の課題に対応した研修であったといえる。  
(2) アンケート調査の記述欄においては、「生徒の多様な考えを引き出す先輩教員の指導は素晴らしいと思った。特に生徒に質問し、生徒が考えを述べた後、その生徒の考えに対して問い返すという指導の大切さを改めて感じた。」「生徒指導上の課題に対しては、何があったのが問題ではなく、どういう考え方でどのように対処するのが大切であることを理解することができた。」「普段、何気なく考えていたことや実践していたことであったが、このように方法論として学ぶことにより、今後の教育活動を推進する上での視点や方策をえることができた。」などの記述があり、「選択研修」を通して、若手教員等がそれぞれの実践上の課題の解決に向けた視点や方策を得ることができたといえる。

### アピールポイント（アイデア）：

- ・「選択研修」の実施に当たっては、それぞれの教員の実践上の課題の解決に向けた視点や方策を得ることができるよう三通りの方法で実施している。一つ目は、いわゆる「飛び込み授業」であり、優れた実践を積み重ねている他校の教員が本校の生徒に対して授業を行うという方法である。「飛び込み授業」の効果は、優れた指導技術等を有していれば、初対面の生徒であっても魅力に溢れた授業を行うことができるということを参観者が実感を伴って理解することである。二つ目は、「講師との質疑応答」であり、講義の最後の場面で質疑応答の時間を設け、実践上の課題の解決の方策を理解できるようにしている。三つ目は、「グループあるいはペアワーク」であり、講義の途中でペアやグループで話し合う活動を取り入れ、自分の考えをまとめたり、表現したりするようにしている。
- ・優れた実践を積み重ねている先輩教員等の指導技術や指導方法等を学ぶ機会を増やしたり、教職経験やそれぞれの教員が有する課題に応じた研修を充実したりすることは、教員の資質・能力の向上とともに複雑化・困難化する教育課題への適切な対応の一助になるものと考えている。

1 「選択研修」導入の背景

(1) 優れた実践を積み重ねている先輩教員からの知識・技能の伝承

かつては、教員に採用された後、学校現場における実践の中で、経験豊富な先輩教員から経験の少ない若手教員へと知識・技能が伝承されることで資質能力の向上が図られてきたという側面が強かった。

しかしながら、近年の教員の大量退職、大量採用の影響により、必ずしもかつてのような先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承がうまく図られていない状況があるといった指摘も強い。

このような状況に対策を打たなければ、先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承が途切れてしまう恐れもあり、若手教員が持つ知識・技能をどのように生かしていくかということも含め、継続的な研修の充実のための環境整備を図るなど、早急な対策が必要である。

そのため、本校においては、優れた実践を積み重ねている先輩教員等を講師として招聘した「選択研修」を実施し、教職に関する豊かな知識や優れた技能等が伝承されるように努めている。

(2) 生徒指導上の課題解決のための「チームとしての学校」の必要性

学校が、より困難度を増している生徒指導上の課題に対応していくためには、教員が心理や福祉等の専門家や関係機関、地域と連携し、チームとして課題解決に取り組む必要がある。

例えば、教員に加えて、心理の専門家であるカウンセラーや福祉の専門家であるソーシャルワーカーを活用し、子供たちの様々な情報を整理統合し、アセスメントやプランニングをした上で、教職員がチームで問題を抱えた子供たちの支援を行うことが重要である。

そのため、本校においては、臨床心理士や社会福祉士等を講師として招聘した「選択研修」を実施し、医療や福祉等に関する専門的な知識や見方を高めるとともに専門家と連携するメリットを感じ得ることができるよう努めている。

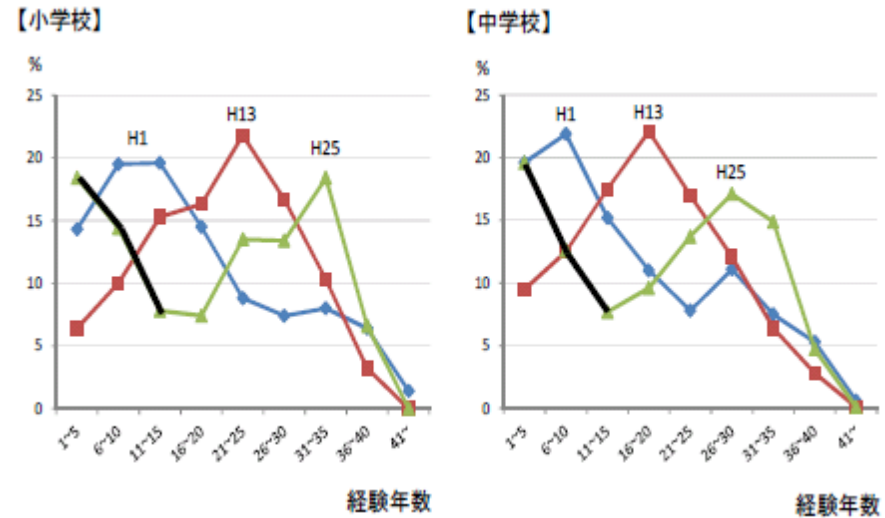


図1 教員の勤務経験年数の推移(文部科学省 学校教員態勢調査 平成元年度、平成13年度、平成25年度)

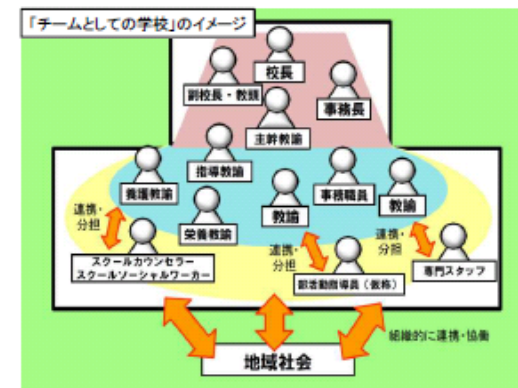


図2 中央教育審議会答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策」(平成27年12月21日)

2 「選択研修」の工夫

「選択研修」に実施に当たっては、それぞれの教員の実践上の課題の解決に向けた視点や方策を得ることができるよう三通りの方法で実施している。一つ目は、いわゆる「飛び込み授業」(図3)であり、優れた実践を積み重ねている他校の教員が本校の生徒に対して授業を行うという方法である。「飛び込み授業」の効果は、優れた指導技術等を有していれば、初対面の生徒であっても魅力に溢れた授業を行うことができるということを参観者が実感を持って理解することである。二つ目は、「講師との質疑応答」(図4)であり、講義の最後の場面で質疑応答の時間を設け、実践上の課題の解決の方策を理解できるようにしている。三つ目は、「グループあるいはペアワーク」(図5)であり、講義の途中でペアやグループで話し合う活動を取り入れ、自分の考えをまとめたり、表現したりするようにしている。



図3



図4



図5

3 「選択研修」の成果

「選択研修」の参加者を対象にアンケート調査を実施した結果、「選択研修」を通して、実践上の課題の解決に向けた視点や方策について理解を深めていることが明らかになった。また、「選択研修」のように実践上の課題への対応をテーマとした研修の機会があれば、参加してみたいという気持ちを大部分の参加者が持っていることが明らかになった。このようなことから、課題の解決に向けたモチベーションを高め、専門的な知識や技能を得ることができる「選択研修」の果たす役割は大きいと考えている。

(1) アンケート結果

	項目	評価			
		A	B	C	D
1	授業参観や研究協議等を通して、学習指導や生徒指導等の改善に向けた視点や方策を理解することができた。	87.0%	13.0%	0%	0%
2	本日の授業参観や研究協議等のような実践上の課題への対応をテーマとした研修があれば、今後も参加してみたい。	92.5%	6.8%	0.7%	0%

(評価 A：当てはまる B：やや当てはまる C：あまり当てはまらない D：当てはまらない)

(2) 参加者の声(一部抜粋)

- <選択研修 道徳>
  - ・今日、会ったばかりの生徒に授業を行うことは難しいことだと思いますが、それにもかかわらず、生徒の興味・関心を高め、生徒の多様な考えを引き出す講師の先生の指導は素晴らしいと思いました。特に生徒に質問し、生徒が自分の考えを述べた後、その生徒の考えに対して問い返すという指導の大切さを改めて感じました。
- <選択研修 生徒指導>
  - ・ストレス対処能力を育むというテーマの下での説明は、とても勉強になりました。何があったのが問題ではなく、どういう考え方でどのように対処するのが大切であることを理解することができました。今後の生徒指導に役立つ内容でした。
- <選択研修 教育相談>
  - ・普段、何気なく考えていたことや実践していたことであったが、このように方法論として学ぶことにより、さらに「このように実践してみよう」「このように生徒とかわかってみよう」など、今後の教育活動を推進する上での視点や方策を得ることができました。